

# 「地域における子育て支援事業」

活動先名：親子の広場あんだんて

## 1、活動先紹介

任意団体である親子の広場あんだんては、子育て中の親子が気楽に立ち寄り、自由に過ごせる広場である。あんだんてでは、子育てに関する様々な思いや疑問、心配事を広場に集まるいろいろな世代の人々と過ごすことで、少しずつ解消し、地域の中で一緒に子育てをしていこうと考えている。

子育てをめぐる様々な問題は当事者である親だけが頑張っても解決できないところまで来ている。誰にも相談できず深刻な問題に発展するケースも少なくない。そこで、住み慣れた地域で安心して子育てをするために子育て中の親子が過ごす場を提供し、心配事や不安を解消していくことを目指している。

地域の人々に見守られながら子育てをしよう、広場では子育てを通して人と人が出会い、学びあい、育ちあい、支えあう場として新たな人間関係を育む場を目指して地域づくりに参画する。

## 2、当初の活動目的や目標

活動先の子供達と仲良くなって、職員の人とも協力し合い、自分達が企画した遊びなどを、楽しんでいく中で学んでいきたいと考えている。そして、今の子供達は、どのような遊びを好んでいて、どのような遊びを求めているのかを考えていきたい。自分達が小学生だった頃と比較して、今の小学生の遊びは変わっているのかも考えていきたい。

東浦は子供の数が多いのに、遊ぶ場所が少ないので、家に引きこもる子供や、集団で遊ぶのが苦手という子供が多いのではないかと思う。そこで、家でテレビゲームをしたり、少人数で遊ぶのではなく、外に行って、たくさん人数を集めて遊べば、いろんな遊びができるし、楽しいということを伝えたい。

## 3、自分達の活動内容

1日目はバーベキューをした。ボランティアの人が1人いて、その人が焼いて、自分達はその補助をやった。その後、子供達と外でサッカーや虫取り、室内では人生ゲームやドミノをして遊んだ。

2日目は社協のボランティアの人が来て、風車や水鉄砲を作った。子供達と一緒に作り、できてない子がいたら教えてあげたりした。作り終わったら風車を回したり、水鉄砲の水を飛ばしてみんなで遊んだ。

3日目は流しそうめんをやった。ボランティアの人が流しそうめんの用具を準備をしてくれて、自分達は準備を手伝ったり、子供達の勉強を見ていたりした。流しそうめんの準備ができたなら、自分達はそうめんやきゅうり、ミニトマト、ちくわなどを流した。食べ終わったら、片づけをして子供達と外ではサッカー、中では人生ゲームをして遊んだ。

4 日目は、集団遊び（けいどろと缶けり）を中心に活動した。自分達がずっと鬼で捕まえる側で、子供達はずっと逃げる側という形でやった。その後は、外や中に分かれた、子供達がやりたい遊びをおこなった。

5 日目は小学校の裏山で宝探しをやった。その日はいつもより早めに活動先へ行き、自分達が朝買ったお菓子を宝探しの宝にし、小学校の裏山に宝を隠しに行った。そして、活動先に戻って子供達と一緒に歩いて小学校の裏山へ行った。2組に分かれて宝探しを行い、みんな宝を見つけられたら、みんなでお菓子を食べた。その後は、小学生とではなく、3歳ぐらいまでの子供と遊んだ。そのお母さん達とも関わることができた。最後にお別れ会をした。

#### 4、活動における問題点・課題

##### ◎問題点

- ・活動内容の中に十分に議論されず計画したものがあつたため、活動先に迷惑をかけてしまったこと
- ・子どもたち自らの外での集団遊びが十分にできなかった

##### ◎課題

- ・ともに活動する仲間や活動先との話し合いや連絡を念入りに行うこと
- ・どのようにしたら集団遊びに積極的に参加するようになるかを考える  
まずは子ども同士の仲をつなげるきっかけとなる場をつくることが大切だと考える。

#### 5、活動を通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

##### 〈宅見〉

最初は、子供達がなかなか自分達の言うことを聞いてくれなくて困ったけど、子供達と一緒に遊んでいく中で自然になつてくれて、自分達の言うことも聞いてくれるようになった。自分から子供達と積極的に関わっていかないと、子供からなつてくれないし、言うことも聞いてくれないということがわかった。子供に対する怒り方というのも、悪いことをしたから怒るのではなく、なぜ怒られるようなことをしたのかを考えないと、いけないということがわかった。自分は、笑顔を作るのがあまり得意ではなかったけど、活動を通して、笑顔を意識するようになってからは、自然に笑顔を作れるようになった。

##### 〈細井〉

##### ◎学んだこと

- ・コミュニケーションのきっかけとなる、遊ぶ（外で体を動かす遊び）ことの大切さ  
子どもたちは遊びの中でコミュニケーション活動を行い、能力を発達させる。

##### ◎理解したこと

- ・周囲の人を巻き込む力を養うこと  
多くのボランティアさんや地域の人々が力を貸してくださったため、あんだんてが活動するに至ることができたということである。代表さんのしっかりとした頼りものであると同時に自分たちの理想を現実にしたいと考え行動している人格が、周囲の人を引き付けたのだと感じた。自分の理想があつてそれに向けて活動していても、独りよ

がりな部分があるとだれも寄りつかないのではないか。巻き込む力とはそういう人格になることだと感じた。

#### ◎成長したこと

- ・人とつながる力をさらに磨くことができた

自分だけでやりたいことをやるようでは、独りよがりな活動になってしまう。周囲の人に思いを伝えることで、共感し協力していただける場合がある。そのように人とつながる中で、自分の思いをさらに発展させ実現することができるのではないか。そのためのコミュニケーション力をさらに伸ばすことができた。

## 6、活動先への提案

子どもたちとの外遊びに定期的に大人が参加できるかどうかだと考える。スタッフさんはわたしたちに「わたしたちは、子どもたちの遊びに体力的についていけない」と話していた。そういう意味でも、「今回の活動は、子どもたちが普段遊んでもらえないお兄さんと遊んでもらえるという、とてもよい機会であった」と述べていた。子どもはいつも同じ年代と遊んでいればよいというわけではないそうだ。時には、大人とのかかわりあいも必要であるということだ。子ども同士の関わり合いの上で自己形成をしていくのだが、その過程で誤った部分をよい方向に戻すことも大人の大切なかかわりあいの一部だと考える。

そのため、今後あんだんてでは場の提供を継続するとともに、人（大人）の提供をしていくべきではないだろうか。たとえ数週間であれ、継続して子どもとかかわることのできる大人（お兄さん、お姉さん）がいることというのは、上記に述べたように子どもにとって非常に有意義なことであると考えます。

## 7、次年度活動をする学生へ

#### ◎活動に望む姿勢・考え方

一人で考え込まずに、一緒に活動する仲間としっかり意見を言い合い、共通点を探っていく。そのために、仲間と意思疎通ができるような間柄になっておくことよい。

#### ◎活動前に学ぶべきこと

計画した活動内容に自分よがりなものがないか精査するべき。自分よがりな計画というものは、どこかで無理が生じ破綻してしまう。

#### ◎活動先との事前連絡の取り方

こまめに連絡をするべき。活動先とわたしたちとの間で意見の食い違いが起きてしまうことを防ぐためにも、連絡を怠らないようにする。また連絡を密に取り合うことにより、相互の信頼関係も構築されると考える。相手の都合にあわせ、わたしたちから連絡をとる。

#### ◎活動の日程、活動時間の設定

こまめに連絡を取り合う中で、日程を決めていく。大学生の夏休みは忙しいかもしれないが、サービ斯拉ーニング活動は授業の一環であり、わたしたちは活動先で活動をさせて

いただく立場であるのだ。そのことをわきまえ、わたしたちが配慮してもらいたい点はきちんと伝え、日程を決める。

#### ◎活動先のスタッフとのコミュニケーションの取り方

礼儀正しくすることは基本である。挨拶もきちんと行う。とは言うものの、過剰な敬語は相手によそよそしいと感じられてしまうことがあるため、避けるべき。

#### ◎活動先の対象者との接し方

まずは、子どもと良好な間柄を作る努力をする。子どもたちから話しかけるのを待つのではなく、わたしたちの魅力を子どもに伝える何かをするとよい。そうして、良好な関係を築く途中において、子どもは調子にのることがある。体当たりしてきたり、わがままを言ったりと、どうやって対処すればよいか困ってしまうかもしれない。しかし甘やかさずに、起こるべき時はしっかりと怒り、褒めるべき時はしっかりと褒めるとよい。一方だけだと、子どもはひねくれてしまうか、さらに調子にのってしまう。その場に応じた対応をした上でこちらの思いを子どもに伝えることで、しっかりと子どもは受け止めてくれ直そうとする。このことは難しいかもしれないが、時間が経過すると共に解決してくれるだろう。

#### ◎活動の記録の記入と活用法

活動風景を撮っておくとよい。そのために事前に活動先から撮影許可をもらい、初日から要所で撮影する。またできるならば、その撮影した写真を子どもたちに何らかの形で渡すとよい。子どもたちにとって活動がよき夏の思い出の一つとなれば、写真を見ることで再び子どもたちがその写真を見て、なにか思い、行動するということがあるかもしれない。またわたしたちにとって、写真を残すことで後の活動報告の際に、言葉では伝わりきらないことを写真によって伝えることができるため、非常に有効なものとなりうる。

#### ◎その他

自分の思いを利用者、活動先の方、先生、活動にかかわるすべての人に伝える。思いを伝えることができなければ、理想をかなえることはできないのではないだろうか。そのためにコミュニケーションが大切になってくる。あせらず、ゆっくりと少しずつ、実践して行ってほしい。活動終盤にはきっと感動することがあるはずだ。